



2019年10月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

| | 全店 | | | 既存店 | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|---------------|----------------|
| | 売上高 | 構成比(前月) | 前年同月比(前月) | 売上高 | 前年同月比(前月) |
| 総 額 | 57,512,048 万円 | 100.0% | 99.2% (102.6%) | 54,624,624 万円 | 97.5% (100.5%) |
| 食 料 品 | 49,616,946 万円 | 86.3% (84.9%) | 100.2% (101.1%) | 47,333,979 万円 | 98.4% (99.2%) |
| 農 産 | 7,528,881 万円 | 13.1% (13.0%) | 97.0% (97.5%) | 7,266,294 万円 | 95.3% (95.6%) |
| 水 産 | 4,460,322 万円 | 7.8% (7.4%) | 99.6% (100.1%) | 4,304,772 万円 | 97.8% (98.3%) |
| 畜 産 | 6,433,955 万円 | 11.2% (10.3%) | 101.4% (98.2%) | 6,187,777 万円 | 99.5% (96.0%) |
| 惣 菜 | 5,896,125 万円 | 10.3% (10.1%) | 100.9% (103.6%) | 5,670,928 万円 | 99.1% (101.4%) |
| 日配食品 | 11,358,438 万円 | 19.7% (19.3%) | 101.3% (100.7%) | 10,425,139 万円 | 99.4% (98.9%) |
| 加工食品 | 13,939,225 万円 | 24.2% (24.7%) | 100.3% (104.1%) | 13,479,070 万円 | 98.8% (102.3%) |
| 生活関連 | 3,331,810 万円 | 5.8% (7.0%) | 93.7% (119.1%) | 3,196,901 万円 | 92.3% (116.8%) |
| 衣 料 品 | 1,455,063 万円 | 2.5% (2.5%) | 86.0% (103.8%) | 1,362,246 万円 | 85.5% (101.7%) |
| そ の 他 | 3,108,229 万円 | 5.4% (5.6%) | 97.4% (107.0%) | 2,731,497 万円 | 94.5% (101.5%) |

② 数 値

| | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------|
| 全店総売上高 | 57,512,048 万円 | 店舗数 | 4,870 店舗 |
| 総売場面積 | 9,739,818.4 m ² | 総従業員数 | 258,934 人 |

| | | | |
|-------------------------|------------------|------------------|------------------------|
| 店舗平均月商 | 11,809.5 万円 | 平均客単価 (前年同月比) | 1,888.9円 (101.0%) |
| 月間m ² 売上(前月) | 5.9 万円 (6.0万円) | 平均店舗面積 | 2,000.0 m ² |
| 月間坪売上(前月) | 19.5 万円 (20.0万円) | パート比率(前月) | 77.2% (77.7%) |

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 10月の天候について、気温は全国的にかなり高かった。台風19号による記録的な大雨で、北日本の太平洋側と東日本では降水量がかなり多くなり、関東地方や東北地方では、河川の氾濫や決壊・土砂崩れなどが発生し、多くの住宅や店舗で浸水などの甚大な被害が発生した。
- ・ 生鮮の相場状況について、青果物では野菜が月間を通して前年より相場安となり、果物はほぼ前年並みであった。水産物の市場への入荷量は、不漁の魚種が多いことから前年に比べ減少し、卸売価格はやや高値で推移した。
- ・ 昨年と比べ、月曜日が一回少なく木曜日が一回多い曜日回りであった。

《 商品動向 》

・ 農産

- ・ 気温環境により、「ミニトマト」などサラダ野菜は好調であった一方、「白菜」「大根」や「菌茸類」の鍋物野菜が不調であった
- ・ 「人参」「玉ねぎ」などの土物類が不調であった
- ・ 国産果実では「ぶどう」が好調であったが、「みかん」は入荷量が少なく不調であったとのコメントが多くあった
- ・ 輸入果実では「バナナ」が好調であった一方、「キウイフルーツ」は不調であった

・ 水産

- ・ 「サンマ」は水揚量が少なく不調であったが、「秋鮭」は好調であった
- ・ 「まぐろ」「かつお」などの刺身類が好調であった

・ 畜産

- ・ 牛肉は「国産牛」や「和牛」が好調であったとのコメントが多くあった
- ・ 豚肉は好不調にコメントが分かれる結果となった

・ 惣菜

- ・ 運動会・行楽需要として、「おにぎり」や「スナック類」が好調であった
- ・ 「カキフライ」「さんまの竜田揚げ」や「唐揚げ」などの揚げ物類が好調であった

・ 日配・加工食品

- ・ 気温環境により、「アイス」「デザート類」や「飲料」が好調であった一方、「練物」「こんにゃく」や「豆腐」などの鍋物材料が不調であった
- ・ 昨年好調だった「納豆」「漬物」特需の反動減が続いている
- ・ 台風の被害があった地域では、「飲料水」や「カップ麺」「レトルト」などの簡便食品に大きな特需がみられた

1、消費税増税前後の動向について

「9月末の駆け込み需要」と「10月の反動減」の状況についてお知らせください

- ・ 9月後半から標準税率の「ビール」や「日用品」中心に駆け込み需要がみられた他、軽減税率の「米」が好調であった
- ・ 増税後、駆け込み需要の反動減があった一方、ポイント還元対策としての販促強化や、台風に伴う防災品の特需があったことにより、全体としての反動減は少なかったとのコメントもあった

2-1、「キャッシュレス・ポイント還元事業」対象企業の方にお伺いします
今回の還元策について「恩恵の有無」と「キャッシュレス決済比率の上昇率」についてお聞かせください

- ・ 還元策の恩恵は確実にあり、キャッシュレス決済比率は1.5倍～3倍に上昇

2-2、「キャッシュレス・ポイント還元事業」対象外企業の方にお伺いします
消費税増税後の「売上・客数対応策」と「その効果」についてお聞かせください

- ・ ポイント販促の強化を行った結果、客数離反が最小限に止まり、客単価がアップした
- ・ カテゴリー割引を行い、効果があった商品群を継続実施している

以上